

日本三大仙



岐阜天仙殿



黄檗宗金鳳山正法寺

大 仏（岐阜県重要文化財）

金鳳山正法寺は、京都宇治黄檗山万福寺の末寺である。第十一代惟中和尚は、歴代の大地震および大饑餓の災霊の祈願をたて、奈良東大寺大仏の聖徳を敬って、ここに大釈迦如来像の建立をはかる。

この大仏は周囲一・八メートルの大イチョウを真柱として、骨格は木材をもって組み、外部は竹材にて編み粘土をぬり一切経、阿弥陀経、法華経、観音経などを張り、その上に漆を施し、金箔をおいた日本一の乾漆仏である。

惟中和尚は、正法寺の門徒が少なく各地を托鉢して、遠くは信越地方まで、ひたすらに経本の喜捨に歩いた。苦業二十五年、文化十二年七月二十二日建立なかばにして歿した。

第十二代肯宗和尚は師の志をよく継ぎ、天保三年四月、苦業十三年二代にわたる実に三十八年の歳月を費して、ここによくやく大釈迦如来像を完成した。大仏の開眼供養には、尾州侯の使者を賜わり、織田信長の居城以来の盛儀であったといわれる。

大仏は像高一三・七メートル、顔長さ三・六三メートル、目長さ〇・六六メートル、耳長さ二・一二メートル、口幅〇・七一メートル、鼻高さ〇・三六メートルあり、胎内仏として薬師如来像（県重文）が安置されている。

〒五〇〇一八〇一八

岐阜市大仏町八番地

☎ 〇五八一二六四一七六〇